地域コミュニティ機能等について

学校法人が運営する教育ごとの地域コミュニティとの関係について

通信制高等学校（分校）の教育課程における地域活動

通信制でありながら「通学クラス」が中心となる学年型の「分校」を運営することで、学生で賑わう校舎を目指します。
全日制・定時制高等学校とは異なり、生徒一人ひとりの希望や必要に合わせた学びをカスタマイズすることができる学校となっています。その教育課程の中で技能連携科目という、職業に関して学ぶ時間をもち合わせています。ものづくりが盛んな生野区において、その技術や製作過程を高校生に共有する事で、生野区への興味関心を持つ機会となります。学生と地域の皆さまが積極的に関わる機会が生まれる事で、これまで生野区で取り組んで来られた地域活動に学生が参入する機会をつくります。

高校普通科目と専門科目を効率良く学ぶことのできるのが技能連携校

技能連携科目のイメージ
通信制高等学校「ネイル実習」

PCを通じた地域交流のイメージ

通信制高等学校の事業を通した学び直しのきっかけづくり

学校のカリキュラムの一部を参加者向けに行います。座学だけではなく、PCや手芸、料理など幅広い授業をしている授業専門教員とそれらを日々身につけている学生が講師となり、地域の皆さま向けに学び直しのきっかけづくり行います。興味を持った人が地域サロンや地域住民向け講座に参加するという仕組みを構築します。

多世代の学び直し「パソコンスキルの時間」」イメージ

シニア世代の学び直し「語学の時間」イメージ

○地域で活動する方々をサポートするカリキュラム

通信制高等学校のカリキュラムの一環で「地域ボランティア」を行います。
・生野区内で活動しているNPO法人のサポートボランティア活動
・生野南ふれあい協議会の活動を支えるボランティア活動
（ラジオ体操の運営や清掃、ふれあい喫茶の運営、まちカフェの実施等）
授業の一環で地域の方々と共に生野区について考え、活動できる機会を得ることは、学校に通う学生にとっても社会学習の経験や職業訓練になると共に、生野南小学校周辺への地域貢献にもつながります。

地域の清掃活動を担う

高齢者支援の学生ボランティア

学生が運営するボランティア喫茶

○通信制高等学校の休日を活用した地域サロンの開催

通信制高等学校は、全日制・定時制高等学校とは違い、一週間のうち平日がすべて登校日という訳ではありません。休日には、専門分野を教えられる教員によって、地域サロンを開催します。
すでに専門の設備が整っていることから、誰でも参加できるサロンとして運営していきます。
下記の開放時の企画例（場所代：無料　材料等諸経費：参加者負担）
・美術室：陶芸サロン　・美術室：大人の絵画サロン
・調理室：料理サロン　・PC室　：PCゲームサロン
・多目的室：ヨガ　　・ライブラリースペース：読み聞かせサロン

陶芸サロンのイメージ

○校庭の一部を地域の皆さまと共同で運営する菜園

校庭にある既存の果樹やグランドの空きスペースを利用し「地域菜園」を設けます。通信制高等学校の生徒の授業の一環として利用するだけでなく、地域の皆さまと共に育てることによって、農作業を通したコミュニケーションが生まれます。収穫された野菜は、自宅に持って帰るのでは無く、通信制高等学校の調理室や開放食堂のキッチンを利用し、加工・調理を行います。また、菜園で収穫した野菜を利用した料理が小林幸（YUKI FOOD DESIGN STUDIO）がコーディネートしている、地域開放食堂でも振る舞われます。

地域菜園の活動イメージ

地域菜園の活動イメージ2

収穫した野菜を使った食ワークショップのイメージ

学校法人が運営する教育機関と地域コミュニティーについて

日本語学校を通した多言語・多文化社会への取り組み

生野区における語学教育の拠点として、学校に通う他国籍の学生だけでなく、地域開放スペースで行う各種イベントに参加する地域の皆さまとの交流を促し、それぞれが他言語でコミュニケーションが図れる**ワールドラウンジを開設**し、地域の皆さまと共に育んでいきます。無料で利用できるこの場所は、地域の皆さまと他国籍の学生が互いの文化を理解し、誰もがここにいてよいと感じるような場所を目指します。また、多文化交流を促すようなきっかけとしてハッカソンを行い、**地域の皆様のアイデアを反映できる運営**を目指します。

日本語学校：多文化・多言語のコミュニケーションの実践

生野区の住民の20%が日本とは異なる文化圏にルーツをもつ方であり、その方々にも気楽に施設を利用してもらえるような工夫をした企画運営を実践します。ワールドラウンジは、メニューの多言語化や校内案内の多言語化など学生が中心となって生野区民にとって優しい場所づくりを実践する事で、軽食を取りながら自分のルーツ言語を気にする事なく談笑できる場所になります。

多言語に対応した案内表示

多文化交流会のイメージ（香川大学グローバルカフェ の様子）

八王子市立みなみ野小学校より

専門学校による専門技術の学びを地域の皆さまと共有する

自動車整備専門学校の**オープンキャンパスを旧生野南小学校の校庭や講堂を利用し、世代を問わず地域の皆さまを対象に行います。**自動車に関する**専門的な学びを地域の皆さまに共有する機会とすることで、**小中学生などの運転のできない子供達にも自動車に関して興味を持ってもらうだけではなく、ものづくりや仕事をするということに関して興味をもつきっかけを作ることができます。そして、車を運転できる方には、学校の紹介だけではなく、試乗体験やエンジントラブルの際の対応等の講習など、専門的な学びを得られる機会を提供します。自動車整備専門学校が提携を結んでいるディーラーや企業も最新車種や旧車など様々な車種の車を持ち込み参加するこのオープンキャンパスは地域の皆さまと共に育むイベントとして、25年間、定期的に開催する恒例イベントとします。

地域の方向けのオープンキャンパスのイメージ１

イメージ２

豊田市：校庭でのデモランより

講堂を活用した地域貢献

講堂の運用に関しては、放課後や休祝日において、大阪市の学校体育施設開放事業の活動場所として利用していない時間帯に活用する計画とします。また、体育倉庫は地域活動の備品の保管場所及び学校体育施設開放事業の活動備品の保管場所として確保します。

講堂を活用した地域貢献

学校の授業や部活動として使うだけではなく、放課後や休祝日で大阪市・生野区の各団体が使用していない時間や期間に、学校法人が運営する教育機関や地域の皆さまが使用できる場所として開放します。開放された講堂では、通信制高等学校の地域サロンでつくった陶芸や絵画の展示を行なったり、周辺のものづくり企業とタイアップした企画、地域菜園で収穫された野菜や生野区に集まってくる食材の即売会等の地域に向けた企画を行っていく場として活用します。

講堂を利用した即売会のイメージ

ものづくり企業や地域サロンの発表会イメージ

地域の魅力発信の取組み

○地域メディアを通じた内外の情報発信

生野区の魅力を多様な切り口から情報発信します。地域の皆さまが自分の街に誇りを持ち、区外の人へ生野地区の新たな街の魅力を発見する機会を提供します。

また、災害時には多言語の情報提供や避難誘導に置いて可能な限り外国人に配慮した支援体制の構築に寄与します。

○シンポジウム及びセミナーの実施

地域・行政・大学・学校・NPO法人・企業などの多様なステークホルダーを招いた対話の機会を提供します。地域社会と他のステークホルダーとのあいだで丁寧な対話を重ね、地域社会における学びの理解と発信に寄与します。

生野南ふれあい協議会ブログ

○セキュリティ対応について

運営事務局管理の下、**学校運営と各イベントを行う地域開放スペースは、教室単位毎に施錠**を行いセキュリティ対応を図ります。

廊下部分は、共用部として学生や地域の皆さまが触れ合える場所と位置づけます。**鍵は、運営事務局にて受け渡し**を行い、地域の人も気楽に使える場所とします。

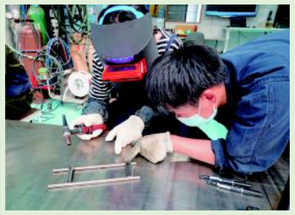
地域の皆様と共に実行する活動

生野区の地元企業との関係性を築く

○学校法人が培ってきた就労支援・自立支援事業のノウハウを生かして外国人留学生や若者の生野区内への就職をサポート

学校法人は、学校の運営だけはなく、就労支援や自立訓練事業など、社会人になる前の段階をサポートする事業を運営してきました。それらのノウハウを生かして、日本語学校に通う生徒や通信制高等学校に通う生徒の進学や就職をサポートし、特に生野区内の地元企業への就職サポートに力を入れていきます。また、その過程において、企業の説明会やものづくりの現場見学を通して地域の方との接点を設け、生野区の魅力を発信するきっかけを作ります。

タイからの留学生の技能実習の様子



東大阪にあるの工場見学の様子

他の小学校跡地利用計画との連携

現在、運営を開始している**いくのパーク（御幸森小学校跡地）と今後事業者が選定される小学校跡地と連携**を図ります。御幸森の「いくのパーク」とは連携協議を進めており、選定後はレンタサイクルステーションの設置や双方の特徴を生かした交流ワークショップなどの企画を進める用意をしております。同時に、「いくのパーク」との連携をとることができれば、周辺地区との波及効果を生み、点での活動を線でつなぎ、徐々に面として地域に波及させていくきっかけとなり、生野区が掲げる「みんなの学校」「まちぐるみ教育」の実現につながります。

いくのパーク盆踊りの様子

レンタサイクルのイメージ

連携ワークショップのイメージ

地域コミュニティとシビックテック活動

○「シビックテック」というITを活用した新たな「学び」と地域コミュニティ形成方法

地域活動のひとつのツールとしてITを活用します。また、私たちが考えるシビックテックの活用とは、地域の皆さまのやりたいことを実現するためのツールであり、教える側と教えられる側という関係性ではなく、教え合いによって地域の皆さまのやりたいことを実現するためのキッカケです。

地域の皆さまの実践したいこと、やりたい思いをITのエキスパートがサポートしていきます。

○Code for OSAKAとの協力関係

「地域の課題をITで解決する」という考えのもと、シビックテック活動をおこなっている団体です。大阪の街をITの力でより良くしようと活動を行っています。生野区出身のメンバーもいることから、すでに「はたけもり」と連携して「シニア世代のためのスマートフォン講座＠生野区」のようなイベントを実施しています。

スマホ教室・パソコン教室のイメージ
Code for OSAKA協力

地域開放食堂を通したコミュニティづくり

○生野区にある飲食店と提携し生野区グルメを楽しめる地域に開かれたテイクアウト専門の食堂

徳島県佐那河内村を拠点に、食まわりのデザインを手がけているフードデザイナーの小林幸が地域開放食堂のコーディネートを行います。コリアン食材を活用したレシピの提案や近隣の飲食店と提携したメニューの考案を行い、地元飲食店と協力し、各店舗のメニューが集うテイクアウト食堂の拠点して運営を行います。また、地域の皆さまを対象として通信制高等学校の調理室や食堂のキッチンを利用した食にまつわるWSの開催や食堂で提供する生野区内で購入した食材を活用したレシピの提案など、食にまつわる多彩な企画を行っていきます。

メニューイメージ

小林 幸 / フードデザイナー・書家
YUKI FOOD DESIGN STUDIO

○学校の食堂（テイクアウト）を地域に開放し、地域の皆さまと学生の双方が利用可能な拠点の形成

学校の食堂（テイクアウト）を地域の皆さまも使える場所にする事で、学生と地域の皆さまの双方が利用可能な拠点となるように整備します。学校の食堂（テイクアウト）の整備に伴い、テイクアウトした料理を楽しめるスペースとしてランチスペースを作ることで、世代を問わず憩える場所を作ります。

フードデザイン教室・ワークショップの企画運営

フードデザイン教室イメージ

ちびっこうべより

小林幸がデザインする食の取り組み

生野区ならではの食材を使ったメニューの開発

地域の皆様と共につくる企画案

生野区ならではの企画運営

○企画例１：校庭キャンプの継続

生野南小学校で毎年夏に行われていた校庭キャンプを再開し、普段は入れない夜の学校を体験することができます。

企画趣旨　：　生野南地区にくる来街者と卒業生等の関係者をつなぐと共に、後世に生野南小学校の歴史を紡ぐ活動

ステップ１：　生野南ふれあい協議会と共に、小学校や周辺地域の歴史を掘り下げるためのミニ講座を行う。

ステップ２：　小学校の校庭と校舎を利用し、夜間の校舎でのワークショップを開催。

ステップ３：　校庭でテントキャンプやキャンプファイヤー等を生野南ふれあい協議会等と共に運営する。

＊企画運営に必要な経費は生野南ふれあい協議会と協議し決定します。

旧西生野小学校の様子

旧生野南小学校のPTA校舎キャンプの様子

○企画例2：「今昔みんなの学校」プロジェクト ~懐かしの教室や校門をみんなで作ろう~

設計事務所・地域の工務店と連携し、利用者や地域の方と一緒にワークショップ形式のDIYで、教室内のリノベーションを地域の皆さまと共に実施します。ものづくりが盛んな生野区らしい発想を引き出し、実現することで地域との親和性を高め、利用者、参加者が自分たちらしい空間を作る学びを参加者の皆さまと共有します。

企画趣旨　：　自分たちの学校をものづくりを通してもう一度愛着のある場所とし、地域と共につくる学校にする

ステップ１：　卒業生や周辺の地域の皆さまを対象としたヒアリングワークショップを行い、これまでの歴史を収集する。

例１：「ここに大きな木があって、休み時間は木陰でグラウンドを眺めていた」

例２：「昔は三校が統合された新設校だったからこの花壇はとても綺麗だった」

ステップ２：　数回に分けてDIY教室行う。

ステップ３：　DIY教室の成果として、過去に生野南小学校にあったが、現存していないモノを参加者と一緒に作って、常設化する。

＊企画運営に必要な経費は一部学校法人が負担し、不足分は参加者より徴収します。

旧神上（こうのうえ）中学校の教室の改修風景

旧神上（こうのうえ）中学校の活用

木造校舎期の生野南小学校（開校式）

○企画例3：ものづくり見学ツアーin生野

ものづくりが盛んな生野区にある企業をと共に取り組む活動を行います。

企画趣旨　：　生野区のものづくりについての認知を高め、魅力発信・関係人口の増加を目指す。

ステップ１：　生野区にあるものづくりをする企業をものづくり百景等を用いて紹介し、生野区のものづくりについて知る機会を設ける。

ステップ２：　企業の方を招き、実際にものづくりを仕事にするということがどのような事か教えてもらう。

ステップ３：　生野区におけるものづくりの課題を解決するためのブレストの実施や、実際に企業訪問を行うことで興味を持ってもらうきっかけを作る。

＊協賛企業を募集し企業協賛金によって企画運営を行います

東大阪にあるの工場見学の様子

横浜市の工場見学ツアーの様子

○企画例4：防災×学び×地域コミュニティ形成「いくの防災防リーグ」の開催

プラス・アーツ協力の下、生野南地域で発生する災害時の問題をワークショップやシンポジウムを通じて予測し、それらを反映する形で防リーグを開催します。（現在連携協議中）

＊防リーグとは、スポーツを通じて防災を身近に感じながら、防災意識を高め、いざという時に役立つスキルを身につけることを目的とした誰もが生涯を通じて楽しめる新たなスポーツイベントの取り組みです。

企画趣旨　：　防災訓練を義務からイベントとして地域の楽しみの一つにすることで日常的な防災への意識を高める

ステップ１：　生野南地域において発災時に対応が必要な項目を平時から地域の皆さまが備えなければならない事を地域の皆さまと共有する。

ステップ２：　グラウンドや講堂等の場所を利用し、プラス・アーツと共に防リーグを地域の皆さまと開催する。

ステップ３：　義務として認識されていた防災訓練や防災の意識が楽しいという認識に移り変わる。

＊施設の防災訓練の一環として学校法人が主体となって行います。

プラス・アーツ　防リーグ「レスキュータイムアタック」

プラス・アーツ　防リーグ「ウォーターレスキュー」